

鈴木 えっと、もう今、退院まで2週間切っておりますけど、どうですか、今のお気持ちとしては。

芦刈 あー、まあ、楽しみでもあるんですけど、ちょっとなんか、不安もちょっと、うん、どうなるんだろうかなっていうのはあります。

鈴木 あー、あの一、ええ。

芦刈 うん、何とも言えない感じです。

鈴木 あの一、前回おっしゃってた、あの一、呼吸器の使い方を、ヘルパーさんが、ま、まだ分かってないかなっていう、そ、そ、そう。

芦刈 あー、それもあるし、生活どうなるのかなっていうのも、うん、うん。

鈴木 あの一、へ、ヘルパーさんって、あの一、呼吸器を特に使うわけではないですよ。

芦刈 いや、でも、その一、訪看さんがいつでも来れるわけじゃないんで、その、ちょっとグレーゾーンなんですけど、ヘルパーさんが、もう、いろいろしてくれないと。多分その一、呼吸器(#####@00:01:09)いろいろあるんで、回路抜けたりとかあるんで、それも覚えてもらうしか、うん、ないので、それはもう、しっかり教えていこうかなと思ってて。

鈴木 え、うん、何が抜けることがあるんですか。

芦刈 あ、回路です、呼吸器。

鈴木 回路。

芦刈 うん、呼吸器回路っていう。

鈴木 あー、呼吸器回路。

芦刈 ほ、ホース、ホース。

鈴木 あ、それが抜けることがあるってことなんですね。

芦刈 うん、移動とかするときに、結構、抜けやすいんで、うん。結構、長いんで。

鈴木 じゃあ、それが抜けたときに、ちゃんとかう、付けられたりとか、そういうことですかね。

芦刈 そうですね、うん。

鈴木 ほ、他に何、ええ。

芦刈 呼吸、呼吸器がもしトラブル起こして動かなくなったりとか、なんか、針がおかしくなったりとかしたときに、あの一、アンビューバック(#####@00:02:03)バックに変える。私、その間、空気を送ったりして、まあ、業者に連絡して、呼吸器持ってきてもらうとか、そういうこともあり得るんで、うん。そういうのを、ちょっと連絡先もしっかり、うん。24時間対応なので、すぐ対応はしてもらえるんで、その辺はちょっと、まあ、お、教えながらになるんで、うん。

鈴木 その24時間対応ってのは、ど、どちらのことをおっしゃってるんですか。

芦刈 あの一、呼吸器のメーカーですね、うん。取り扱ってるメーカーが24時間対応で、何かあればすぐ来てくれる、うん。

鈴木 なるほどね。じゃあ、そういうことが、やっぱりヘルパーさんにも理解してほしいってことなんですね。

芦刈 そうですね。

鈴木 あの一。

芦刈 それを、しっかり教えていかんわい。

鈴木 あの一、前回7月の23日に、あの一、看護師の方が芦刈さんの介助をされてるのを、見学されたんですけど、介助者の方。

芦刈 あ、そうです。はい。

鈴木 それ、何名ぐらい来られたんですか。

芦刈 そんなときは5名ぐらいですかね。

鈴木 訪看さんと、ヘルパーさん両方含めて。

芦刈 そうですね。

鈴木 じゃあ、ちょっと人数的には、全員ではないんですね。

芦刈 全員ではないですね。

鈴木 その、その辺りはどう思います？ それやってみて。

芦刈 まあ、見ただけなので、どうなのかな。

鈴木 それ何を。

芦刈 そこはでも、うん、いや、介助してるとこ見ただけなんで。例えばベッドに上がるときの、あの一、スライディングシート使って、うん、寝たままずらすとか、あと体位交換のやり方とか、うん。そういうの実際手出してやってないので、まあ、こういう感じかなぐらいだと思う。もう実際、退院してぶっつけ本番みたいな感じで、うん。もう紙とか写真とかでは、で、そ、その一、やってるとこは見てるんですけど、やっぱりやってみないことには分からないと思うので。

鈴木 じゃあ、ベッドから車いすに移乗することとか、そういうのは見てないんですね。

芦刈 が、いや、それも見ましたよ、スライディングシートで、うん。うん、移動するところを。

鈴木 何分ぐらいやったんですか。

芦刈 まあ、1時間ぐらい。

鈴木 1時間。

芦刈 はい。

鈴木 それ、ビデオ撮影されたんですよ。

芦刈 あー、撮影したんですけど、びょうい、病院以外持ち出し駄目なんで、うん。

鈴木 じゃあ、それは今後来てもらって見てもらう感じになるんですかね。

芦刈 そうですね。もう、実際もう、教えながらって形になると。

鈴木 けん、それはもう、1回限りですか。

芦刈 1回限りです。もうないです。

鈴木 もう、ぶっつけ・・・。

芦刈 まあ、それでもしてくれるだけ、まあ、よかったかな。

鈴木 あー、してくれるだけでも。

芦刈 うん。それも(#####@00:05:43)でないと。

鈴木 じゃあ、少しはましって感じなんですかね。

芦刈 うん。そんなときちょっと、コロナが落ち着いてたので、うん。またちょっと最近増えて、うん、ちょっと厳しくなってますね、うん。

鈴木 お、ということは、あの一、え、え、訪看さんとかヘルパーさんも、一応来れる状態だったってことなんですね。

芦刈 そうですね、まあ。

鈴木 じゃあ、えっと、まあ、芦刈さんとしてはやっぱり、ぶっつけ本番でやるってことについては、どう思います？

芦刈 いやー、まあ、で、できればその一、やっぱり、自然に直接研修できたらよかったんですけど、うん。まあ、そこはもう、どうしようもないので、うん。もう、何とか教えなが

らでやってくしかないかなって、もう。(#####@00:06:45)しかないんで、うん、うん。

鈴木 あの一、もしね、研修やるとしたら、どのぐらいの日数やりたかったですか。あの一、実際やってもらうとしたら。

芦刈 まあ、それでも、何回も集まれないので、まあ、2回できればいいほうかな、うん、うん。

鈴木 例えばもしね、コロナ禍じゃなくて、自立生活体験室で研修できるとしたら、やっぱりそういう形でやったほうがよかったって思います？

芦刈 うん、それは絶対そっちのほうが、はい。

鈴木 つまり宿泊して、やるってことですね。

芦刈 あの一、されるほうも、する側も、そのほうが多分、安心すると思うので。多分するほうが多分、あの一、心配だろうなというのがあるので、僕よりも、うん。

鈴木 それ、どのぐらいの日数ぐらいだ、あの一、や、やりたいとかって希望はあったりします？ もしやれるとしたら。

芦刈 まあ、1週間はできたらいいかな、うん。

鈴木 つまり全員っていうか、その一、ヘルパー全員やってもらいたいって感じですか。

芦刈 まあ、理想はそうですけどね、なかなかそうもいかないんで、うん。

鈴木 あの一、前回おっしゃってた、あの一、えーと、ストレッチャーってはい、は、入ったんですか。ストレッチャー、なんか入らないかも。

芦刈 はい、大丈夫です、うん。もう、一応それで入れるように、うん、やって(#####@00:08:21)、うん。もう、そこは大丈夫です。

鈴木 それは、お風呂入るときって、どんなふうに入る予定なんですか。

芦刈 まあ、寝たままでシャワー浴、うん。

鈴木 それは・・・。

芦刈 湯船には漬からないので。

鈴木 浴室に行くってことですか。

芦刈 ううん。あの一、部屋の中の浴室に。

鈴木 あ、部屋の中に浴室があるんですね。

芦刈 はい、そうです。

鈴木 あの一、つ、つまり一応、お風呂の部屋みたいのはあるってことなんですよ。

芦刈 まあ、部屋の中に、あの一、風呂場があるので、うん。そこ、浴槽、もう取っ払って  
るので。

鈴木 なるほど。

芦刈 うん。もう造るときに、浴槽付けなくて造ってもらった。

鈴木 なるほど、なるほど。それ、設計の段階から、芦刈さん関わってたんですか。

芦刈 うん、一応、希望聞かれて。うん、もう、ストレッチャーで入りたいので、浴槽取っ  
て、付けなくてと言ってたので、うん、うん。

鈴木 他に何か、そういう形で希望言って、改造してもらったとこってありますか？

芦刈 あとはまあ、コンセントぐらいですかね。あの一、呼吸器用の。他のやつと共有にな  
ってたので、そう、呼吸器だけ専用で、うん、うん、もう付けてもらったので、うん。全然  
もう、あの一、普通の、まあ、一応バリアフリーですけど、普通のマンションと一緒に、  
まあ、呼吸器入る人初めてなんです、そこへ。センターの、うん、なんかまあ、いろいろ、  
勝手が分からなかったみたいで、うん。

鈴木 じゃあ・・・。

芦刈 後でいろいろ付けてもらいましたけど。

鈴木 コンセントを一つにするっていうのは、やっぱり安全のためですか。

芦刈 そうですね。呼吸器やっぱり、うん。他のと兼用じゃ、ちょっと悪いので、うん。

鈴木 じゃあ、まあ、取りあえず住宅に関しては、まあ、そういう希望を言って、ある程度、まあ、うまくいってるかなど。

芦刈 うん、まあ大丈夫ですね、うん。

鈴木 で、あの一、前回おっしゃってた、あの一、親御さんと連絡取れましたか、その後。

芦刈 あ一、あれからですね、あの一、母のほうから、あの一、必要なものを買いよって言って、通帳に10万円振り込んでくれて、うん。まあ、それが結構、僕的にはうれしかったんですけど。まあ、まあ多分、全面的に賛成はしてないと思うんですけど、まあ、やってみよってということかなって思って、うん。

鈴木 まあ、賛成はしてないけど、一応、まあ。ん一、何か一言、言っていました？

芦刈 いや、特には、うん、うん。で、なんか、ウォーターサーバーも頼もうかって言いよったけど、それはちょっと待ってって言ったんですけど、はい。部屋も分かんない、部屋見ながらって言って、うん。

鈴木 ウォーターサーバー、ああ。

芦刈 うん、うん。それやっぱり、そこは親だなって思いましたね、ちょっと。いろいろあったけど、最終的には、うん、応援してくれてるのかなって、うん。

鈴木 あの一、前おっしゃってた、お兄さまってリハビリの先生なんですか。

芦刈 そうです。

鈴木 あの一、理学療法士。

芦刈 PT。

鈴木 あ、PT。

芦刈 はい、PT です、はい。

鈴木 で、お兄さまも一応、なんか、認めてくれてる感じなんですかね。

芦刈 あー、まあ、聞いてはないですけど。うーん、まあ、分からない。

鈴木 じゃあ、その後まだ、は、話はできてないっていう感じなんですね。

芦刈 話はしてないですね、うん。

鈴木 で、あの一、ちょっと、あの一、前、あの一、前、あの一、何て言うんですかね。重度訪問介護をね、あの一、2018年に、芦刈さん、使い始めてますよね。

芦刈 はい。

鈴木 そのときって、あの一、えっと、同じ病室の人も、なんか使い始めたっていう話を、ちょっと、オシキリさんから聞いてるんですけど。

芦刈 何が、何がですか。

鈴木 あ、重度訪問介護のヘルパー。

芦刈 あー、はいはい。うん、まあ、一応使ってましたね。

鈴木 その、他の人っていうのは、同室の人も使い始めたってことなんですか。

芦刈 あー、隣のベッドの人。

鈴木 へえー。

芦刈 うん。



鈴木 それやっぱり、芦刈さんが、まあ、使ってるの見て、自分も使ってみようって思ったんですかね。

芦刈 あー、まあ、こういう感じで使えるよって言って、僕がその、自立支援センター薦めた感じですよ。

鈴木 へえー。

芦刈 うん。そこやったら、うん、ぼ、僕も知ってる人なんで、うん、安心なんで、うん、紹介できた感じで、うん。

鈴木 でもその方は、あの一、退院とか、そういうことは考えてないわけでもんね。

芦刈 あー、もう、ちょっとそういう状態ではないので、うん。ちょっと、外出もちょっと難しい。

鈴木 あ、人なんですわね。

芦刈 と思うんで、はい、うん。

鈴木 あの一、なんか今回、オシキリさんが退院するってことで、他の人で、そういうふうに変化のあった人っているんですか。

芦刈 いないと思います。

鈴木 フフフフ。

芦刈 ちょっと僕も、あとは、薦められる人が、今んとこ、ちょっといないので、うん。ちょっと逆に、あの一、大変かな。自分が結構大変だったんで、うん、まだ自分も、ちょっとフォローできるレベルじゃないので、もうちょっと自分も、いろいろ勉強して、フォローとかできるようになったら誘ってみようとは思いますが。

鈴木 あの一、えっと、ちょっと前の話になるんですけど。

芦刈 はい。

鈴木 あの一、芦刈さん本の中で、なんか、仲良くしてた後輩の話してて。あの一、なんか、気管切開をその人して、結局延命治療をしなかったっていう、そういうことが本の中に書かれているんですけど、それっていつの話です？ あの一、芦刈さん高校生のときだったんですか。

芦刈 あ一、それはそうですね。僕が高校か、中学ぐらいかな、うん、うん。

鈴木 そういう方って、あの一、何人か、やっぱりいらっしゃったんですか。その一、要するに。

芦刈 まあ、その時代は延命治療ちゅっても、呼吸器もない、なかったんで、うん。まあ、もうベッドで寝て、まあ、気管切開するくらいで。まあ、でも本当に、その一、弱っていくのを待つだけみたいな感じだったので、もう結構、延命しない人もいましたね。もう、ベッドでね、寝たきりになったら、もう、パソコンがない時代でしたから、もう、寝たらもう終わりみたいな感じ、みんな思ってたみたいで。

鈴木 でも、気管切開して呼吸器は付けるわけですよ、

芦刈 あ、でも呼吸器、その時期はほとんど、もうなかったんで、うん。気管切開するだけになりますね。

鈴木 あ、そうなんですか。

芦刈 うん。

鈴木 じゃあもう、えっと、その状況だと、なかなかこう、生きていくことがつらいついていうことなんですかね。

芦刈 そうですね。僕は、今の時代だからここまで生きていられるんで。呼吸器なかったらもう、もう自分も生きてないので、うん。

鈴木 で、あの一、えっと、まあ、芦刈さん卒業した後に、うん、あ一、ノブハラさんと外出したりとかすると思うんですけど、それって、は、20代の頃でしたっけ。

芦刈 そうですね。21ぐらいかな。

鈴木 あー、そうですか。

芦刈 うん。

鈴木 あの一、まあ、その当時は多分、芦刈さんは、あの一、鼻マスクしてないですよ。で、車いすを使ってたわけでもんね。

芦刈 電動車いす。

鈴木 あ、電動車いすね。あの一、車いすを使っている人が、あの一、何ていうんですかね、例えば病棟の看護師と一緒にちょっと、30分程度、こう、出掛けるとか、そういうことはあったってことですよ。

芦刈 いや、ないですね。

鈴木 あ、それはない。

芦刈 うん。あの一、その一、病棟、病院の行事とか、院外レクリエーションとかにはあるんですけど、そ、外出(#####@00:18:37)っていうのはないです。

鈴木 あの一、例えば、その一、病院の中の散歩することとかって、そういうことはやってたってことですか、看護師さんが付き添って。

芦刈 あー、まあ、それはやってますね。まあ、その頃は僕、呼吸器は何も付けてなかったもので、結構、自由に動いてました。

鈴木 あの一、例えば療育指導室の指導員さんとか、保育士さんが一緒にこう、車いすで付き添うことってあるんですか。

芦刈 あー、まあ、病院内だったら、まあ、ありますね、うん。

鈴木 じゃあ病院の外に行くことはないってことなんですね、逆に言うと。

芦刈 そうですね。

鈴木 あー、なるほどね。

芦刈 もう、職員さん一緒に出るんで、僕は。

鈴木 ない。

芦刈 うん。

鈴木 あの一、療育指導室の人って、あの一、時々、芦刈さんの手伝いとかすることあるわけですよね。

芦刈 あ一、まあ、それはあります。

鈴木 どう、どういう役割の分担なんですか、看護師さんと療育指導室の指導員さんって。

芦刈 療育指導室は、あの一、行事を主にやってくれるんで、ちょっと、日頃の療育とかいって、あの一、うち、重身病棟も、重身の人も入ってるので、まあ、あの一、歌、歌う会とか、いろいろやったりとか、もう、看護と介護のほうに入らない、うん。ちょっとまあ、行事んとき手伝うぐらいで、(\*\*\*\*ギジョウ@00:20:19)とか、まあ、手伝うぐらいなんですけど。あとはもう、行事とか、その一、こまごましたこと、まあ、片付けだったりとか。今、特にコロナなんで、家族とかが入れないし、片付け頼む人とかが、日頃ちょっと話聞いてあげたりとか、病棟スタッフじゃ、なかなか忙しくてできないことを、まあ、やってもらってるんで、どちらかというところ、こう、患者寄りというか、うん、(#####@00:20:54)かなと、僕は思ってる。今、どんどんなくなっていったる病院もあるんですけど、僕はやっぱり必要だなと思って。

鈴木 例えば、あの一、なんですか、Zoom のセッティングとか、そういうこともやったりとかするんですか、療育指導室の人が。

芦刈 え？

鈴木 Zoom をセッティングしたりとか、パソコンをセッティングしたりとか。

芦刈 あ一、それもありますね。その一、アンテナおかしくなったとか、テレビの故障とか、そういうのを、あの一、電気屋に連絡してくれたりとか。まあ、Zoom するのに手伝ってくれる、今、あの一、リモート面会、病院がやってて、それも指導室が全部、うん、準備して、うん、タブレット持ってきて、セットしてってやってもらってる。

鈴木 じゃあ看護師さんっていうのは、どちらかというと、その一、体位交換とか、そういう看護に関わることっていう感じで。

芦刈 もう、病棟の中で、うん、あの一。で、まあ、行事も手伝うんですけど、まあ、メインでやってくれるのは指導室のほうで。で、まあ、呼吸器の人とか、いろいろ、で、まあ、ナースが付いてくれたりとか、業務の間にしてくれてるっていう。まあ、業務が大変なんで、なかなか、うん、大変そうですけど。

鈴木 例えば食事の介助とて、とかって誰がやるんですか。

芦刈 それもかん・・・。

鈴木 看護師さん。

芦刈 看護師と、まあ、あの一、介助員で、介護福祉士持った人、うん、がやります。

鈴木 それはじゃあ、病棟の、あの一、看護師さんと介助員がやると。

芦刈 はい。主に看護師で、うん、まあ、介助員が手伝うって感じで。

鈴木 あ、じゃあ、それは療育指導室の人がやるわけじゃないんですね。

芦刈 そこは全然。うん、食介とかはしません。

鈴木 あ、なるほど、なるほど。あの、す、す、相談支援専門員って、療育指導室の人がやっていますか。

芦刈 いや、違います。

鈴木 それ、どこの部署がやっています？

芦刈 病院内じゃない。

鈴木 病院内・・・。

芦刈 外部です。外部です。

鈴木 うん？ 外部。

芦刈 外部。

鈴木 病院の中にはいないんですか。相談支援専門員さんは。

芦刈 あー、特にはいないです。

鈴木 あの一、つまり自立支援法が2005年に始まってから、相談支援専門員って人が、で、できたと思うんですけど、その一、えっと、モニタリングだとか、それは外部の人がやってたんですか。

芦刈 そうです。

鈴木 へえー。

芦刈 もう、それぞれで、あの一、契約したい人を自分で決めて。僕はたまたま、うちの指導室にいた人は、もう辞めてそっちに行って、うん、相談支援員やってたんで、僕はそっちお願いして、うん、やってもらってるんで、いろいろ、あの一、言わなくても分かってくれてる、うん。もう、介助のこととかも分かってくれてるので、まあ、そこはすごいやりやすいんで。

鈴木 じゃあ、その方の、あ、支援って、い、い、どのぐらいから始めてるんですか、相談支援は。

芦刈 は、もう、その制度が始まってから。

鈴木 に、2005年とか。

芦刈 はい。

鈴木 あー、そうですか。

芦刈 誰にするんっていったときに、もう、その人でっちゅって、うん。

鈴木 じゃあ、今でもその人ってことなんすね。

芦刈 そうです。今、いろいろ動いてもらってます。

鈴木 あの一、どんなふうにあれですか。つまり、あの一、退院が決まって、あの一、プランを立てるわけですよね。

芦刈 そうですね。(#####@00:24:50)全部こうしようとかも、はい。

鈴木 それ、いつ頃からやり始めましたか。

芦刈 いや一、もう、それ、は、自立、ILP 始めてから。その、一応退院したいってことを伝えて。

鈴木 なるほど。

芦刈 うん。

鈴木 そのときって、その一、相談支援専門の人って、どんなふうにおっしゃってましたか。

芦刈 あ一、僕は出られるなら(#####@00:25:26)んで、まあ、お、応援はしてくれましたけど。

鈴木 あ一、心配とかはなかったですか。心配言われたりとか。

芦刈 あ一、まあ、その一、そこまではなかったというか。

鈴木 どんなふうにおっしゃってたんですか。

芦刈 どんなふう。うーん、まあ、覚えてないですね。別に、特にこれっていう印象がある、あれがなかったです。

鈴木 あ一、じゃあ特に反対されることもなく、あ一、そうなんですか。

芦刈 反対とかはない。うん、それ反対とか、そういうあれ、仕事じゃないので。まあ、な、

なるべくご本人の希望に沿うみたいな感じでなんで、うん。

鈴木 じゃあ、かなり芦刈さんのことを考えてくれる人なんですね。

芦刈 そうですね、はい。

鈴木 で、その後、じゃあ、どれぐらい、その一、介護時間が必要なのかっていうことを話したりとかしたんですか。

芦刈 そうですね。それも行政に交渉してくれて、はい。

鈴木 で、結果的に、あの一、どのぐらいの時間下りたんでしたっけ。

芦刈 んっと、多分、1人分と、まあ、ちょっと2人介助が要る部分があるんで、まあ、ちょっと今、詳しい時間が分からない。800時間ぐらい、以上はもらったと。

鈴木 あー、そうですか。

芦刈 はい。

鈴木 じゃあ、その部分の不安とかはないんですね。

芦刈 あー、そこは大丈夫と思います。

鈴木 あー、取りあえず十分な時間もらえたかなって感じなんですかね。

芦刈 はい。

鈴木 で、あの一、その、そ、引っ越し先って、もうすぐに、その一、オシキリさんたちのやってるマンションにしようって決めたんですか。

芦刈 そうですね。で、話してたら、なんか、移転するって話聞いて、それはまあ、去年(###@00:27:58)来年のか、まあ、7月ぐらいに完成するって聞いたんで、じゃあ、もうそれに合わせて、あの一、退院の日を決めようかなって、うん。まあちょっと、僕的には早く出たかったんですけど、また一回引っ越しして、また引っ越すのも大変なんで、うん。



鈴木 あ、じゃあ移転の日、ことも合わせて退院の日を決めたような感じなんですね。

芦刈 そうでした。それに合わせてね。

鈴木 マンションの移転っていつでしたっけ、あれって。

芦刈 8が、あ、7月の15日。

鈴木 あー、なるほどね。じゃあ大体、その1カ月後ぐらいだろうみたいな感じで。

芦刈 もう、いきなりできて、すぐだと、向こうも大変だろうから。

鈴木 なるほど。

芦刈 うん。

鈴木 あのー、他の場所とかは探さなかったんですね。

芦刈 県営住宅とかも考えたんですけど、そのー、仕事をそこでするつもりだったので、うん。(#####@00:29:06)、うん、なんか、仕事ある(#####@00:29:08)くれたけえ。だからもう、移動とか大変で、うん。で、そのー、決まっとる先は、重度訪問が使えないので、うん、そういうのもあって、もういい、いいな、もう、あ、アパートで、エレベーターで降りるだけなんで。

鈴木 ハハ、フフフ。

芦刈 うん。そっちのほうがいいなと思って。

鈴木 なるほど、なるほど。

芦刈 だから、そのー、家賃が結構、5万2000かかるんで。

鈴木 そうですよ。

芦刈 そのー、生活保護とかも考えたんですけど、大分の5万だと家賃が高過ぎて、あのー、できないんです。

鈴木 なるほど。

芦刈 その一、保護申請が。

鈴木 あー、そうですか。

芦刈 うん。3万ちょっとなんで、うん。で、もう、まあ、(#####@00:30:01)払うしかないんで。

鈴木 あー、なるほどね。

芦刈 (#####@00:30:04)、ちょっと大変ですけど、うん。

鈴木 でも、そ、そ、その他の生活保護は受けるんですか。

芦刈 あー、や、年金と特別手当ぐらいで、まあ、10万円で。あと、それにちょっと仕事してもらって、まあ多分、(#####@00:30:24)から気持ち、ちょっと来るぐらいなんで、うん。まあ、15万ぐらいになればいいかな。

鈴木 あ、なるほど。じゃあ生活保護は申請されないんですね、全く。

芦刈 うん、できないです。その一、家賃が高く。

鈴木 なるほど。

芦刈 うん。それも考えたんですけど、うん。あの一、自立してる先輩とかからは、生活保護がいいんじゃないのとは言われたんやけど。

鈴木 あの一、その一、家具とかね、テレビとか、そういうやつって、もう買ったりとかしたんですか。

芦刈 あー、もうほとんどそろってます。

鈴木 それ、新たに買ったんですか。

芦刈 新たに買ったやつもありますし、もらったやつもあります、はい。

鈴木 そ、その一、えっと、まあ病院で使ってたものとか、持っていく。

芦刈 あー、テレビ台に関しては、病院で使ってるやつ。あの一、コロが付いて、どこでも持っていけるやつが、うん、あるので、それを(#####@00:31:34)持っていく。

鈴木 例えばでも、冷蔵庫とか、そういうのも買ったんですか。

芦刈 冷蔵庫はもらいました、知り合い。まあ、ちょっと小さめですけど、またそれ、生活して足りなくなったら、大きいのが買おうかなって。取りあえず今んところは、これで、うん。あー、洗濯機だけはちょっと、買わせてもらいます。その一、くれるって人もいたんですけど、でもこの、この時期だし、洗濯機は新しいほうがいいかなと。

鈴木 なるほど。え、知り合いって、友達とかということですか。

芦刈 そうですね、はい。

鈴木 へえー。

芦刈 うん。荷物、それも運んでくれます、全部、部屋まで。

鈴木 へえー。やっぱり芦刈さん、友人がたくさんいるから、そういうふうを手伝ってくれる人がいっぱいいるってことなんすね。

芦刈 そうです。もう、あの一、荷物も入れてあるんですけど、知り合いがトラック出してくれて、荷物全部乗っけてくれて。退院の日も来てくれて、荷物持っていってくれるんですけど。

鈴木 へえー。

芦刈 だからもう、引っ越し業者さんは全然頼んでなくて。

鈴木 あ、そうですか。

芦刈 そのの、て、(#####@00:32:46)で、まあ、そっちは一応、(#####@00:32:49)

は出したんですけど、うん、それも、あれでやってくれたんで、うん。

鈴木 それは昔からのとも、しん、あ、友達とかですか。

芦刈 そうですね。まあ、(#####@00:33:02)。

鈴木 じゃあCILの、あの一、大分の人がそういう、ひ、引っ越しをするってことはないんですね、手伝うってことは。

芦刈 あ一、ないですね。自分でやるみたいな感じで。

鈴木 あ、そうですか。

芦刈 うん。

鈴木 なるほどね。あと、あの一、今、あの一、介助者の研修とかILPって、まだ受けてんですか。

芦刈 ちょっと最近、忙しくてできてないですね。

鈴木 あ一、そうですか。

芦刈 か、(\*\*\*\*カイユウ@00:33:43)の研修はずっとやってて、僕ができないとき、オシキリ君がやってくれて、うん。

鈴木 それは別に、代わりにやってもらっても大丈夫かなって感じなんですか。

芦刈 あ一、もう、あの一、その動画は撮ってるんです。あの一、人形ですけど。で、見ながら、オシキリ君もだいぶ覚えてくれる。

鈴木 なるほど。

芦刈 うん。それでやってもらってる。

鈴木 あ一。じゃあ芦刈さんが、じゃあ特に、そこにライブで見なくても、後で、こう、撮ってもらったものを見て、それでじゅう、十分っていうか。

芦刈 そうですね。もちろん、あの一、僕が参加できる時はするんですけど、その一、向こう、ヘルパーさんの都合とかで、午前中がいいとかになると、僕はちょっと、午後からじゃないと、リモートとか難しいんで、うん。それに合わせてもらってる感じ。

鈴木 あ一、なるほどね。

芦刈 はい。

鈴木 あの一、ど、どんなことを、あの一、今、介助でやってるんですか、研修で。

芦刈 まあ、あの一、僕、あの一、(####@00:34:47)に、あの一、投与するんですけど。その一、(####@00:34:52)の入れ方とか、体位交換のやり方とか、その一、(####@00:34:58)、車いすに移動させるとか、そういうのを全部、人形でやって。あの一、人形と体重も全然違うんで、これ、い、イメージトレーニングみたいな、感じですね。

鈴木 なるほどね。

芦刈 うん。実際、また体に(####@00:35:16)全然違うんで。

鈴木 まあでも、やんないよりは、もうましかなって感じなんですかね。

芦刈 そう、全く何も知らないよりはいいと。

鈴木 あの一、何ていうんですかね、その一、まあ、いろんなことを、その一、あの一、芦刈さん指示しなきゃいけないじゃないですか、その。それについてって、特に、ん一、あの、大変だなとは思わないってことなんですね。

芦刈 まあ、その一、こっちで見ながら、その一、人形でやるのを指示するのは大変です。その一、自分、横から、はたから見て介助されたことはないんで、幽体離脱でもしない限り見れないので。(####@00:36:07)そんな感じで(####@00:36:08)たんで、これちょっと、指示とかも難しいんですけど、まあ、(####@00:36:15)何とか教えてるので。

鈴木 あの一、何ていうんですかね、その一、病棟って結構、看護師さんとか指導員さんの人が結構、い、あの一、や、先にやってくれたりとかしますよね。あの一、いろんなことを。

芦刈 あー、もう、慣れとるから。

鈴木 慣れてるからね。

芦刈 でも、最初はやっぱり、全部自分が教えてやってたので、そこはもう、あの一、34年入院してるんで、その一、介助の指示とか出すのは、もう慣れてるんで、うん。もう、そこは新しく来た人に教えるのも(#####@00:36:56)なんで、まあ、その感覚で、今も教えれるかなと。

鈴木 あー、なるほどね。

芦刈 うん。

鈴木 じゃあまあ、退院してもそこは、(#####@00:37:05)変わらないのかなって感じですかね。

芦刈 そうですね。やってもらうことは多分、変わらないので。ただ病院が、まあ、ヘルパーかに、違いだけなんで。

鈴木 なるほどね。ただ、例えば料理をするとか、掃除をするとか、それ、今まで指示することはなかったじゃないですか。

芦刈 いや、それはなかったですよ、もちろん。

鈴木 それは、うーん、面倒だなとか思わないんですかね、退院して。

芦刈 あー、まあ、ただ料理とかは、ちょっと彼女と、まあ、外泊とかしたりとかしたときに、まあ、ちょっと鍋作ったりとか一緒にやって。まあ、作ってたので。で、僕、食べるの好きなんで、逆にもう、何作ろうかって今、楽しみにしてる感じで。掃除とか洗濯は、まあ、初めてなんで、そこはちょっと面倒かなとは思うんですけど。で、買い物とかも、あの一、今リモートでもやってるし、うん。結構、彼女と買い物も行ったりもしてたので、全こう、病院のことしか知らないってわけではないので、うん。その辺は、ちょっと生かせるかなと。

鈴木 あー、なるほど、なるほど。あの一、さっき、あの一、洗濯機購入したってふうにおっしゃってたんですけど、それどうやって購入したんですか。

芦刈 あれ、リモートで見ながら電気屋に行って、あの一、結構、電気系に詳しい友達がお  
って、その友達が、あの一、値切ってくれて、安くしてくれて。店員さんに聞きながら、こ  
れ、こ、これがいいですって言って iPad を、まあ一応、そんな感じです。

鈴木 え、リモートでっていうの、iPad か何かですか。

芦刈 あ一、あの一、スマホで、らい、LINE の無料通話。

鈴木 なるほど。

芦刈 もう、ずっとそれで彼女とやり取りしてる。

鈴木 え、そ、それ買いに行ったときって、その、とも、友達が買いに、その場所に行った  
んですか。

芦刈 はい。その彼女と。

鈴木 あ、彼女とね。

芦刈 うん。で、彼女がリモートして(#####@00:39:19)、うん。

鈴木 あ一、なるほどね。で、あの一、そのときあれですよ。その一、店でそういう撮影  
するってことに、何か要望書とか出されたんですか。

芦刈 ううん、あの一、そ、その場で店長が、店長さんに許可をもらって、撮ってみたいに。

鈴木 あ、じゃあそ、その場でこう、やっていいですかっていうことで。

芦刈 そうですね。まあ、こそっと撮ったときもありますけど。

鈴木 まあ、そういうなじみの店だったら、そうやってやれたってことなんですね。

芦刈 店長さんとかが優しい人は、別にいいですって言ってくれたけど、結構、あの一、チ  
ェーン店とか、うるさいところが多い。

鈴木 そうですよ。

芦刈 うん。大手とかになったら、ちょっとうるさいですね。はい。

鈴木 じゃあ結構、リモートでもあれですか、なんか、選べるもの選べたかなって感じですか。

芦刈 そうですね。全然、大丈夫ですね、今、うん。

鈴木 じ、実際にみ、いやでも、やっぱり見たかったっての、あり、あ、ないんですか。

芦刈 あー、あるんですけど、い、この時期だし、しょうがないかなっていう。

鈴木 あー、なるほどね。例えばなんか、Amazon とか、そういう通販で買ったものとかあります？ 今回の引っ越しで。

芦刈 はい。あの一、実は Amazon で、あの一、欲しいものリストっていうのがあるんで、あれでだいぶ、支援してくれる人を買ってもらったのと。加湿器とか、あの一、自動で手指消毒の液が出るやつとか。

鈴木 え、自動でなんですか。

芦刈 手指消毒、手の消毒の。うん、アルコール消毒、うん。出るやつとか、あと掃除機、掃除機とか、サーキュレーターの、そういうの全部、友達とかに買ってもらいました。

鈴木 それは買い物リストにリストアップし、してってことですか。

芦刈 そうです。それを見てくれて、みんなが。

鈴木 それは、友達か何かが見てくれてたんですか。

芦刈 友達とか、あの一、Facebook の知り合いとかが結構、その、知り合いが多いんで、はい。(###@00:41:37)の写真上げて(###@00:41:38)してから、うん。まあ、それ嫌、嫌な人もいるだろうけど、まあ、うん。誰かが支援してくれればと思う、うん。

鈴木 それは、あの一、当事者の人たちですか。



芦刈 いや、普通の人です。

鈴木 健常者の。

芦刈 うん。あ、当事者の方もいますけど、全然普通の、うん、友達とか、うん。

鈴木 じゃあ別に、当事者でも健常者でも、そうやって行ってくれたのがいいって感じなんですかね。

芦刈 うん、うん、友達が、うん、(###@00:42:10)。

鈴木 あの一、なんかあの一、自立生活センターって、当事者が支援するってこと大事にされてると思うんですけど、それについてどう思います？ ピアカウンセリングっていう。

芦刈 あ一、いや、それはそれで、僕はいいと思うんですけど。まあでも、そこばかりだと、世界が、なんか狭くなると思うんで、すごい、いろんな人と、やっぱり仲良くなりたいたいし、うん。僕も支援されるし、支援したいと思ってるんで、そこは、僕は別に、当事者だからとか違うとか考えずに、うん、やっていますけど。まあ、その一、障害者同士でやるっていうのもいいことだと思うんですけど、うん。

鈴木 やっぱあの一、当事者だからこそ、あの一、分かることもあるってことなんですかね。

芦刈 そう、それは本当にあると思います。今回もこの一、いろいろ当事者の人に教えてもらいながらやってるんですけど、やっぱり、その一、呼吸器付けてる人とか、そういう人の言葉がやっぱり、自分の中で、あの一、響きますし。あの一、海老原さんにも結構、相談してるんですけど、結構その一、海老原さんの言葉、結構大きいです。

鈴木 あ、今でも相談されたりとかするんですね。

芦刈 うん、もちろん、うん。(###@00:43:41)、ずっと介助マニュアル作ってるんですけど、それ全部、海老原さんの参考にさしてもらって、(###@00:43:49)、その一、マニュアルを、なんか、データでもらって、うん、それをちょっとばくってるところもありますけど、それに、僕なりにちょっと手を加えて。もう、気付いたら76ページになって。

鈴木 ハハハハ、ハハハハハ。

芦刈 (#####@00:44:05)とこから、介助とか全部入れたので、見るほうが大変かもしれない。

鈴木 ハハハハ。それ・・・。

芦刈 必要なときに、そこ開いて見てくれればいいかなと。

鈴木 それって今度見させ、見させてもらうことができますか。

芦刈 あ、あの一、すぐ送ります。

鈴木 あ一、ありがとうございます。ちょっと見たいなど。

芦刈 PDFで見れますよね。

鈴木 あ一、ありがとうございます。はい。で、あの一、支援会議って、退院支援会議って、何回開きました？ 今まで。

芦刈 えっと、最初にドクターと顔合わせ行って、全体の支援会議は、明日また最後のがあるんですけど、3回ですね。

鈴木 3回。

芦刈 うん。ちゃんとした、その一、全体の支援会議。

鈴木 それは十分だと思います？ ご自身で。

芦刈 あ一、あ、どうなんです。もうちょっとあってもいいかなって(#####@00:45:07)。

鈴木 あ一、もうちょっとあってもいい。どう、ええ。

芦刈 なんか、なかなか動いてくれなくて。こっちが日にち決めて、無理やりやってる感じなんで。

鈴木 あ一、そうですか。

芦刈 任せたら、ずっとやらなくて。それで6月に支援会議したときに、主治医の先生が、なんか、次はもう、じゃなくて5月んときか。5月んときにやったんですけど、まあなんか、次は7月ですとか言いよったんですけど、主治医の先生も時間がないので、あの一、毎月やったほうがいいんじゃないのって言ってくれて。まあ、何とか毎月やってる感じですね。

鈴木 どなたが言ってくれたんですか、毎月って。

芦刈 主治医。

鈴木 主治医の先生。でも、えっと、あの一、7月でいいんじゃないかって言った人って誰なんですか。

芦刈 いや、周りっていうか、他の、うん。それじゃ遅いじゃんって、うん、言ってくれたので。でも結局、日にちはこっちが言って、この日でお願いしますって、他の部署にも聞いてくださいって(#####@00:46:21)、うん、やってる感じなんで。

鈴木 じゃあ主治医の人って、じゃあ比較的、そういう会議やったほうがいいんじゃないかって言ってくれた人なんですね。

芦刈 そうですね。(#####@00:46:34)急性期に、その対応は早い気がします。多分、退院支援とか慣れてるのかなって。

鈴木 ああ、逆に。

芦刈 うん。一応、神経内科の先生がいて。

鈴木 なるほどね。

芦刈 うん。

鈴木 じゃあ、なんかもう、あ、あの一、芦刈さんの退院に向けて、結構積極的にやってくださってるなって印象なんですね。

芦刈 そうですね。なんか、逆に主治医代わってよかったな。前の先生だと、こんなにスムーズにいかなかったから。

鈴木 あー、そうですか。え、今のせん、ええ。

芦刈 まあ、すごい心配してくれてる、本当なんですけど、多分。

鈴木 今の主治医の先生って、女性の先生でしたっけ。

芦刈 いや、男性です。

鈴木 あ、今、男性に代わってるんですね。

芦刈 うん。まあ、年近い、同じぐらいの。うん、42~43かな。

鈴木 あー、そう、若いですね。

芦刈 まだ若い、うん。

鈴木 ちなみに院長先生って、どんなふうに言ってますか。

芦刈 あ、院長先生は結構慎重派なんで、賛成はしてない感じで。若干、なんか、ちょっと協力的じゃないなっていうところは、(#####@00:47:56)が見受けられるの。動画に関しても、こっちが調べとか言われたりする。

鈴木 え、それ院長が言ったんですか、そういうふうに。

芦刈 院長が多分、駄目って言ってるんで。もう、上が駄目って言ったら、下は従うしかないの、うん。

鈴木 えー、その院長先生って、結構、長いんでしたっけ。

芦刈 そう、長いですね。あの一、ふくいん、副院長の頃から、うん、いるので、もう20年ぐらいなんのかな。

鈴木 20年ぐらい。

芦刈 うん。

鈴木 いん、ええ。

芦刈 あの一、よ、よく話し掛けてはくれるんですけど、実はその一、僕の高校時代の担任の先生が、なんか親戚らしくて。じゃけん、その関係で、なんかよく話し掛けてくれたりとか、まあ、して。まあ、よく話して、話はするんですけど、結構、難しい感じで、うん。

鈴木 その人がいん、院長になったのって何年ぐらいなんですか。10年とかですか。

芦刈 あ一、10年ぐらいかな、うん。

鈴木 え、よく話をするっていうのは、え。

芦刈 話、話し掛けてくれるんです。

鈴木 え、あ、そうですか。月、月何回とかですか。

芦刈 あ一、決まってない。全然話さないときは話さないし、うん。あの一、たまたま病棟で会ったときに声掛けてくれるぐらいで。最初、あの一、り、びよ、病院がリモートで面会やるかどうかのときに意見を求められて、やったほうがいいと思いますよとは、まあ、言わせてもらったんですけど、うん。まあ、それぐらいで、うん。

鈴木 支援会議のときって、院長先生来られるんですか。

芦刈 いや、来ないです。

鈴木 ど、どなたが参加されるんですか、支援会議って。

芦刈 まあ、病棟室長と、受け持ちナースと、主治医と、あと指導室と、れ、連携室。

鈴木 あ一、地域連携室ね。

芦刈 うん、地域連携室。あと、まあ、リハビリとか栄養士も入ってる。そこに、その一、自立支援センターと、相談支援員と、かつ、まあ、途中から、ほう、訪看とかも入りだしたので、介護の人、うん、うん、入るように。

鈴木 あー、なるほどね。その中で慎重派の人とかっていますか？

芦刈 えー、まあ、連携室はちょっと慎重派で。もう、僕はあんまり好きじゃないタイプ。

鈴木 ど、どんな感じのこと言ってんですか。

芦刈 えー、結構、厳しいことを言われる。

鈴木 例えば。

芦刈 そのー、その、最初は、そのー、ヘルパーさんに(#####@00:51:03)とかできないんで、そこはどうするのみたいなこと言われたりとか。

鈴木 え、何ができないですか。

芦刈 あのー、呼吸器のマスクの交換とか。でも、まあ、あのー、事業所がいろいろ言うんなら、それでいい、いいとは言ってたんですけど。

鈴木 なるほど。

芦刈 あとは結構、最初は、そのー、生活慣れるまで毎日、車いす乗るのはどうかなとか。週に何回かとかしたほうがいいんじゃない。そこはもう、あのー、自分の自立してからのことなんで、自由なんですけど、結構、うん、そういうことを言うので、うん。

鈴木 え、今回、今回の地域連携室って、どんな役割をされてるんですか、今回の退院の件で。

芦刈 あー、ほ、本当だったら、そのー、僕は療養介護に入ってたので、うん、あれが、あ、ひどい人が主に、まあ、やる感じになってるんですけど。だから地域連携室が、退院に向けての、いろいろ手続きとかしてくれるんですけど、そのー、僕が、なんか、療養介護なんかだと、(#####@00:52:27)が入るみたい感じなんで、向こうもちょっと、どうしていいものかっていう、うん、感じで、なんか思ってるみたいで。

鈴木 じゃあなんか・・・。

芦刈 やりにくさはあるみたいな。

鈴木 あー。地域連携室が、じゃあなんか、訪問看護の手配するとか、そういうことはしてないんですね。

芦刈 まあ、その一、連絡とかは、まあ、してくれたりとか、情報提供とかは、地域連携室、通してやってもらうので、うん。

鈴木 でもなんか、実際に動いてるのは療養介護の人なのかなっていう、そんな印象なんですか。

芦刈 そうですね。指導室と、その、相談支援員が動いてる感じ。

鈴木 あー、なるほど、そうですか。

芦刈 なんかその辺の兼ね合いがいろいろ難しいみたい。僕もよう分からない。

鈴木 あ、じゃあ、地域連携室の人と話をする機会って、あんまないってことなんすか、芦刈さんが。

芦刈 もう、あんまりない。廊下で会っても、あいさつもしてくれんけん、もういいやと思ってる。

鈴木 え、あいさつもしてくれない？

芦刈 うん。そうそう。

鈴木 え、あいさつしてくれないんですか。

芦刈 うん。あんまり印象が、僕的には良くない。

鈴木 フフフフ、大変ですね。なるほど、分かりました。ちょっと4時に、ちょっとなくなってしまったので、あり、ありがとうございました。またちょっと、あれですよ、来週って忙しいですよ、やっぱり。

芦刈 来週の、えっと、いつかな。この時間・・・。

(丁)